

三神定所降也。御書に
示れたる事自れに可成
降申す由に少定候事是
宜候。海舟の程に
是降候形事候物申
候。其由に申す。心
事候所より何事申
候。降申す形に是候
事。申す。申す。申す。
其由に申す。申す。申す。
其由に申す。申す。申す。
其由に申す。申す。申す。
其由に申す。申す。申す。
其由に申す。申す。申す。
其由に申す。申す。申す。
其由に申す。申す。申す。



謹呈 貴下ノ松方内閣ヲ退カル、ヤ道路傳ヒテ之ノ日ナラシテ
松方内閣倒レ三角同盟ノ内閣成ルヘシト當時、不肖思ラク詮説ノ如
キハ一風説ニ過ヤシテ到底事實ニ於テ行ヒ得ヘキトアル、僅
ニ二月今ヤ將ニ松方内閣倒レントエルニ、乃リ政界ノ大勢由見ニ
還ヒ其説安一歩ヲ進メ来ラントスルモノ、以シテ閣下ニ随伴シ
テ政界ニ奔走スル茲ニ十有六年、其閣下ニ忠誠見此際、豈ニ一言
ノ閣下ニ呈セシテ止ムヘケンヤ

近時我カ政界ノ大勢、立憲的ト藩閥的トノ競争ニシテ甲者能
クシ者ヲ征壓シ盡シテ、乃チ到底我カ政界ノ刷新ヲ望ムヘカ
ラス、而シテ世人其現象ヲ意味シテ曰ク閣下ト藤侯トノ競争時
代ニシテ閣下能ク藤侯ヲ制スレハ我カ立憲史ニ新面目ヲ開キ
之ニ及シテ、藤侯若シ閣下ヲ壓スレハ我カ政界ニ一障頓挫ヲ見

其國家ノ進運國民ノ休戚ニ關スル大ナリモノアリト夫レ紐リ尚
ニ知リ従事ノ經歷ニ考ヘ近時ノ大勢ニ徹スルニ閣下ト藤侯トハ
我カ政界ニ於テ、東西大立物ニシテ二者共ニ一歩ヲ讓ラカシム
ス其立憲的動作ニ於テ、閣下ト藤侯ト、皆之ハ世人、共ニ識認
スル所ナリ、然レニ三角同盟ニシテ、果シテ成ルハ首相、椅子、藤侯
ニ占メラシ閣下ニ其下凡ソ外相若クハ、藏相、椅子ヲ坐スルヘシ是
レ閣下カ一贏ヲ勝候ニ、輸ス所以ニシテ、最モ、坂伯、藤侯内閣ニ降ル
ヤ世評、彼レ既ニ老耄セリト嘲笑セリ、然レニ今閣下三角同盟
ニ入ラト世評ハ復々坂伯、如ケレ特ニ外務ナリ大藏ナリ近時若ク
此尚難向ニシテ其衝ニ當ル者ハ決シテ万全ノ効ヲ收メ得ヘカラン
ノミナラズ、必ニヤ其蹉躓ヲ見ルハ、ヤ明ニシテ特ニ大藏、如クハ、増
後問題ノ為メ、必ニヤ右派政變ノ四分五裂ヲ免ナシス、而シテ其四分五

列に道安受より始るへし加之なる閣下ト藤侯ト藤侯ト板伯トに於
ケル近時ノ知交ニ考ふるに藤侯ノ閣下ニ於てハヨリに板伯ノ藤侯ニ
於てハ深クシテ且其意ハ明ニシテ一時ハ停ニ其日思成らしそ早
暇閣下カ松方内閣ニ於けんヤ如ク閣下復々其地に在るノ止ムテ
得らんニ漕過ニハキハ今ヨリ豫メ之ヲ明言シ得へし況ニヤ近時
我カ政界月ニ益々党査政治ノ佳境ニ接近シ来リ閣下智カ内閣ヲ
組織スル彼擇ニ二年ノ延天ニ迫ルモノアリ何ツ吾ニテ乎今ニ於
テ藤侯ノ下風ニ降ルノ必要ヤアル議者或ハ云フモノアリ今閣
下カ何藤内閣ニハん量ニ閣下カ松方内閣ニハント何リ選ハント是
レ議者ハ何事乎ノ意アリテ其一時ヲ揣摩セントスル松意ニ出ツ
ルモノニシテ其閣下ニ不忠ハん其意ニ之ヨリ大んモノナシ量ニ閣下ノ
松方内閣ニ在ルヤ世人ハ其意ハ松方ヨリハ却テ閣下ニ其意カ
置ケリ而シテ今ニ之ニ交レ閣下若シ何藤内閣ニナラハ將来閣下ハ
藤侯ノ下風ニ立ツノ実跡ヲ跟エスノミシテ藤侯ノ人物ヲ敬服高
メ閣下ノ威望ヲ敬服隆クセヨリ不肖ノ閣下ニ忠実ハん豈ニ之ヲ
欺ルニ由ズんニ思ヒンヤ

福田久 印

伯爵大隈重信殿

閣下

右尊嚴ヲ冒瀆シ急走申見テ是々閣下幸ハ不肖ノ敬意
ヲ察セリし備ニ挨拶ヲラレテサ明治三十四年五月三十日川越鐵道
ノ車中ニ認ム

引切符

本社線の諸驛に於て本社線内を毎日往復せられ又は廿五人以上同時に乗車せらるゝに對して其賃金を割引する割引切符を發賣す

換

名古屋以東より京都、大坂行き旅客には名古屋と草津にて乗換へ伊勢參宮の旅客には名古屋と龜山にて乗換へ伊賀上野並に月ヶ瀬看梅の旅客は柘植にて乗換を要し又た京都、大坂より及び參宮線より名古屋以東行き旅客には此乗換を要す

引停車

植なり

信取扱

三雲なり

中辨當

なり

出札口開放

間を除くの外出札口を開放し不斷切手を發賣す

本社線にて公衆電報を取扱ふは蟹江、彌富、關、柘植及び本社線にて辨當等を賣る者あるは桑名、龜山、關及び津

愛知、四日市、津の三驛にては帳簿整理の爲め些少の時



三菱合資會社銀行部
第參期營業報告

九年七月より同年十二月迄六ヶ月間當銀行部諸勘
領左の如し
債に屬する分

一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇

金五万圓
金三十八万百二十二圓八十七錢九厘
利益金として本社へ繰込
後季繰込
右之通候也
明治三十年一月
東京市麴町區八重洲町一丁目一番地

三菱合資會社銀行部

第百十九回國立銀行第參
拾六回半季實際報告

明治廿九年七月より同年十二月迄六ヶ月間當銀行諸勘定
の要領左の如し
負債に屬する分

一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇

株立金
積立金
紙幣消却元資積立金
紙幣流通高金
紙幣預り金
諸店より借越金
他店より借越金
前季繰越金
當季繰越金
計利益金
諸公債證券
紙幣消却元資預金
紙幣消却預金
貸付金

の如し
六圓六十一錢四厘
當季總益金
九十六圓七十五錢四厘



海邊之聲
 必類長發
 必類長發
 必類長發





Handwritten Chinese characters in cursive script (Caoshu). The text is arranged in two vertical columns. The right column contains the characters '年終已訖' (Year's end is over) and '帳目平矣' (Accounts are balanced). The left column contains the characters '以迄生計' (As to the livelihood) and '竭田之極' (Exhausting the field to the limit).